

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日～11月11日)

分野: 少子高齢化、社会保障	
氏名: 丸谷智保	株式会社セコマ 代表取締役社長
質問事項	記述式回答
予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	地方に於いては、都市部以上に急速に高齢化が進む。65才以上人口が50%を超える自治体が多数出現する。地方自治体の税収は大きく減り、最低限の行政機能やインフラが維持できない。小中学生の減少は、学校の維持すらも危うくし、また、結果として教育コストの上昇を招く。 少子高齢化の問題は全国一律に進展せず、地方は高齢化による圧倒的な労働力人口の減少と公的サービス提供が不可能な状況に陥る。高齢化によって医療機関への依存率が高くなる半面、維持が出来ない地域が続出し、最終的にはコミュニティの崩壊につながる。
目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	高齢化による問題点は、地方社会に於いて予想をはるかに超えるスピードで進展するため、少子化対策では間に合わない。少子高齢化問題を、地方と都市部に分け、地方は高齢化の問題に優先的に取り組み、長年かけて作り、守ってきたコミュニティと耕作地を維持する政策を実現するためには、政府の強権的な地方分散化政策が必要。圧倒的多数の与党を持つ今しか出来ない思い切った政策が求められる。(地方社会構造のサステナビリティを目指す) 社会保障費は「これだけ出るから足りなくなる」の発想から、出費を抑え、保険料収入を上げる為に、納得して払う体制作りが必要。
今後取り組むべき構造改革(2016年～2030年)	(300字以内で回答してください)
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	自衛隊の様々な機能を政策的に地方に移転させ、元々広域な地域レベルでの活性化を図る。其の上で、地方を観光や食文化の活性化と食の自給率アップの防波堤と位置づける。とりわけ、農業・産業の労働人口不足は、海外からの労働力をより簡便に受け入れる規制緩和を行う事に対応し、将来移民を受け入れやすい土壌を作っておく。 社会保障に関しては、これも労働力と人材の不足により、機関としての医療・介護施設を維持するのが困難になって来ているのと同時に、高齢者のモビリティが著しく低下している。 巡回介護、巡回医療、巡回健康増進プログラムの実施等、医療費の配分を移動型設備に切り替える。 薬価を大幅に引き下げたうえで、新薬の導入を簡便にし開発コストを下げる。 地域内医療機関の情報オンライン化を推進し、無駄な薬の処方や複数の医療機関で同様の検査を行うなどの無駄を省く。 社会保障費による「延命」治療の線引きを明確にする。また、高額医療については、国による新たな保険制度を導入し、2階建ての制度とする。

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日～11月11日)

分野: 地域経済	
氏名: 丸谷智保	株式会社セコマ 代表取締役社長
質問事項	記述式回答
予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	<p>地方に産業を興すべく工場を建設するにしても、人員の確保に、都市部よりもコストが掛かり、工場完成後の人員確保もままならない状況が既に存在するが、14年後は、更にその地域が大幅に拡大すると、地域産業は負のスパイラルに陥る。</p> <p>農業分野は高齢化による離農が加速し、多くの耕作放棄地が出現することになると、農村・酪農物流は更にコスト高となり、崩壊につながる。</p> <p>年金・生活保護費等、社会保障給付が地域の可処分所得に占める比率が30%を超えてくる。</p> <p>物流の非効率化は中山間地区の商店の維持が困難となり、宅配業者もドライバーの確保が困難なことから、配送を中止し、地域崩壊の拍車がかかる。</p> <p>一方、農村・酪農が維持されている地域では、自然と食文化を融合した新たな価値創造が都市部や海外からのインバウンド需要を呼び、観光面では今までにない発展を見せる。</p>
目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	<p>地域経済を考える上で、大きく関連するのは高齢化と労働人口不足。工業用ロボットから、中小企業でも導入可能な簡便なロボットの開発に研究軸を移し、農業、酪農、水産業、食品加工業などで安価で導入できるものを増加させる。</p> <p>自動運転機能のトラックが地方の物流を担う。高規格道路が延伸され、観光地が増加、自動運転バスが観光と地域の足を担う。無人ローリーが酪農家を回り、集乳し、その日のうちに乳業工場に納品する様な、無人物流の社会。</p> <p>とにかく、人員のかからない地域経済構造を目指す。</p> <p>物流、経済は点ではないWeb構造で活性化する(強くなる)。</p>
今後取り組むべき構造改革(2016年～2030年)	(300字以内で回答してください)
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	<p>無人物流の実証実験に取り組み、自動運転は一般自家用よりも商業利用を優先して開発する。その為の、インフラと法整備を、今から始める。</p> <p>地域経済の問題点として、高齢化による消費の減退があるが、観光の促進により「住民票人口」では無く「延べ消費人口」を増やす。</p> <p>国、地域を上げての観光宣伝やネット発信を増やし、宿泊施設やインフラ整備、語学人材の養成(観光系の学校を増やす)等に取り組む。</p> <p>北海道であれば空港コンセッションによる民活の推進。バス道路網の整備(JRを縮小し、財源を振り向ける)。</p> <p>宿泊施設の再生と整備を目指す、特別目的ファンドの創設と税制優遇による外国資本の導入。</p> <p>海外の人材を受け入れやすいように、海外に日本語学校を積極的に増やす、援助する。</p> <p>地方自治体のさらなる統合と合理化を図り、自治体人材を民間人材として活用する。</p>